好

四年

画数 6
筆順 好好
オン コウ
クン この＝む・す＝く

成り立ち

〝母〟の意味を表した〝女〟と、〝子〟とを組み合わせて作った字です。

「母おやは子どもが大すき、子どもは母おやが大すき」です。それで、〝すき〟という意味を表しました。例愛好、好学、好奇心。

「すきなものは〝よい〟にきまっている」ということで、〝よい〟という意味に使います。例良好、好感、好機、好運、好人物。

また、〝うまい〟〝たくみである〟という意味にも使われます。例好投、好投手。

使い方

▽ぼくの友だちに、とても好感の持てる人がいます。たいそう好人物で、一緒にいるのが楽しい人です。

▽わたしは、とても好奇心が強いと人に言われます。わからないことがあると、すぐ「なぜ？」と聞くからです。人に聞いてもわからない時は、本を調べたり、先生に聞いたりします。すると「好学心がおうせいだね」と先生がおっしゃいます。

熟語例

▽愛好（愛し好むこと。好きなこと。「落語を愛好する」などというふうに、つかいます。）

▽好学（学問が好きなこと。）

▽好奇心（わからないこと、めずらしいことにたいする強い関心。ふしぎだなあと思う心）

▽良好（良いこと。「感度良好」などと、つかいます。）

▽好感（良い感じ。好ましいと思う感じ）

▽好機（良い機会。チャンス）

▽好運（良い運勢。「好運にめぐまれた」などというふうに、つかいます。）

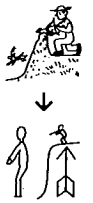
▽好人物（良い人。気だての良い人）

候

四年

画数 10
筆順 候候候候候
オン コウ
クン そうろう

成り立ち



がけの上から、矢を人にあてようと、「様子をうかがう」ことを表した字です。〝厂〟は、がけの上で様子をうかがう人のすがたを表しています。「様子をうかがう」という意味を表した字です。例伺候、斥候。

たんに〝様子〟という意味にも使います。例天候、気候、兆候。

また、〝天候〟の意味にも使います。例季候、測候（所）。

さらに、むかしの「あります」という意味のことばである「そうろう」を表すのに使われます。たとえば「これは本であります」を「これは本にて候」と言います。このような言い方の文を〝候文〟と言います。

使い方

▽天候が思わしくないので、本日の遠足は中止します。（「天候が思わしくない」とは「天気が悪い」という意味です。）

▽季候の変わり目には、風邪をひきやすいので、注意しましょう。

熟語例

▽伺候（位の高い人の様子を伺いに行くこと。「お殿様の前に伺候した」などというふうに、つかいます。）

▽斥候（敵の様子を探りに出かけること。「敵中深く斥候に出かけた」などというふうに、つかいます。）

▽天候（天気の様子。そらもよう）

▽気候（ある土地の、長い間の天気の様子。「気候の温暖な土地」などというふうに、つかいます。）

▽兆候（何かが起こる様子。前ぶれ。「天変地異の兆候が見られた」などというふうに、つかいます。）

▽季候（季節や天候）

▽測候（その地方の天候を観測することです。「測候所」は、天気予報をしたり、地震の観測をしたりする所です。）